



2021.11.9

# 2021年度 第2四半期決算説明

東洋紡株式会社  
代表取締役社長  
竹内 郁夫

皆さん、こんにちは。東洋紡の竹内でございます。

本日は、当社の決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。また、平素は当社をお引き立ていただきまして、ありがとうございます。

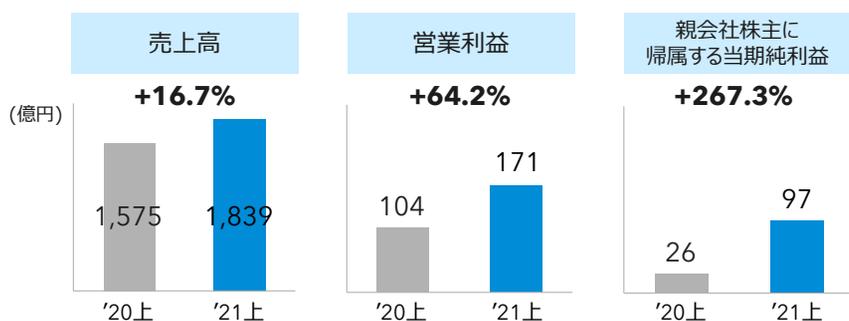
それでは、資料に従いご説明申し上げます。

## 決算のポイント



### 上期実績

原燃料価格高騰の影響あるも、工業用フィルム、PCR検査試薬が堅調に推移し、増収増益。営業利益 171 億円（1.6倍）、当期純利益 97 億円（3.7倍）



### 2022年3月期通期予想

工業用フィルムは堅調に推移するも、原燃料価格高騰、自動車減産の影響が懸念されることから、営業利益 290 億円、当期利益 130 億円の予想を据え置く

2

2ページをご覧ください。

上期実績ですが、原燃料価格高騰の影響がございましたが、工業用フィルム、PCR検査試薬が堅調に推移したことから増収増益となりました。営業利益は171億円、昨年対比1.6倍、当期純利益については97億円、3.7倍となりました。この171億円という金額は、2006年以来の最高益でございます。

2022年3月期通期見通しでございますが、工業用フィルムは堅調に推移いたしますものの、原燃料価格高騰の影響、自動車減産の懸念、加えまして、PCRも今後は減速してくるということで、営業利益は290億円、当期利益は130億円と、8月に見直した数値を据え置くことにいたしました。

## 決算サマリー | PL



(億円)

	20年度		21年度	増減	
	上期	下期	上期	金額	率
売上高	1,575	1,799	<b>1,839</b>	+264	+16.7%
営業利益	104	162	<b>171</b>	+67	+64.2%
(率)	6.6%	9.0%	<b>9.3%</b>	-	-
経常利益	59	148	<b>133</b>	+74	+127.0%
特別損益	▲ 19	▲ 132	<b>▲ 18</b>	+1	-
親会社株主に帰属する当期純利益	26	16	<b>97</b>	+71	+267.3%
EBITDA* <small>* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)</small>	195	262	<b>271</b>	+76	+38.7%
EPS (円)	29.7	17.6	<b>109.2</b>	-	-
ROE* <small>* 21年度上期は年換算ベース。 (当期純利益×2)÷期首・期末平均自己資本</small>	2.3%		<b>10.2%</b>	-	-
営業CF	134	216	<b>118</b>	▲ 16	-
減価償却費	91	100	<b>100</b>	+9	+9.7%
設備投資	118	114	<b>138</b>	+20	+16.5%

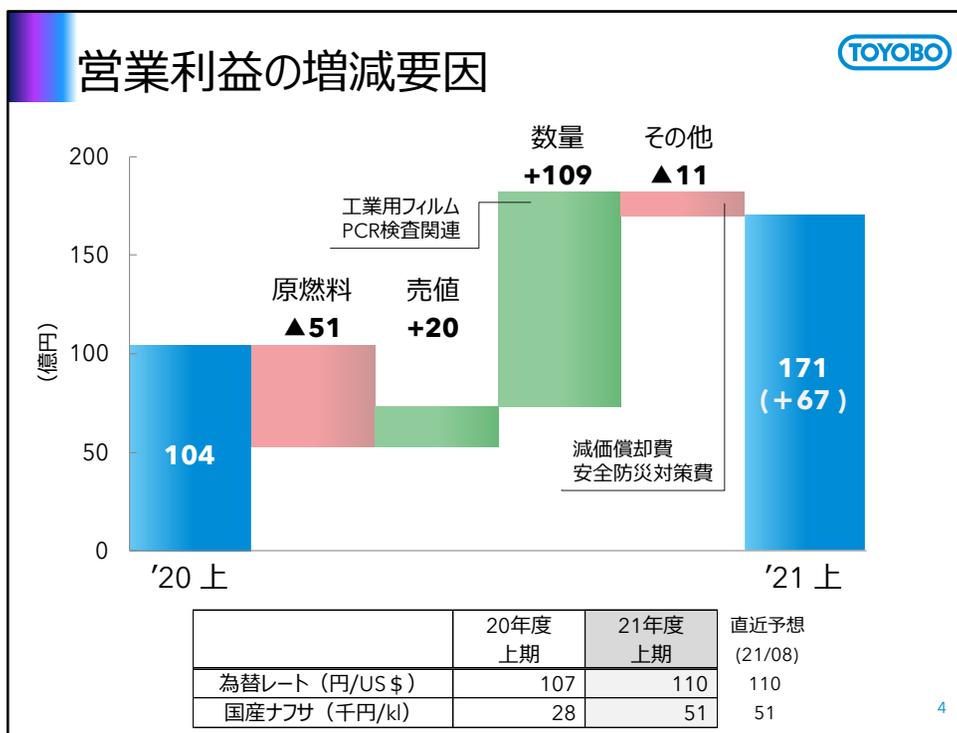
3

詳細につき、資料に従いご説明します。3ページをご覧ください。

セグメントの内容は後ほどご説明いたしますが、売上、営業利益には子会社の決算月調整の関係、具体的には旧帝人のフィルム事業を譲受したときの3カ月分がここに加算されております。それを差し引いても増収増益ということでございます。当期利益でございますが、今回はグループ会社の税効果を取れたということで、税額が圧縮され、当期純利益については大きくなっております。

営業利益に減価償却を戻したEBITDAについては、今後、私ども、積極投資で償却が増えるということで重視していく指標でございますが、こちらについても増益となっております。

PL項目ではございませんが、営業キャッシュフローについては、売上の回復に伴い運転資金が増えたということで、減額になっております。



4ページをご覧ください。営業利益の増減要因分析でございます。

一言で申せば、原燃料価格高騰のマイナス影響を付加価値の高い製品の数量増で補った、乗り越えた。その結果としての増益と言えらと思います。

なお、価格転嫁でございますが、原燃料のアップ51億円に対して売値見直しが20億円ということで、4割程度にとどまっております。これについては、多くの製品の価格が急に上がって、お客さまに価格の見直しを受け入れていただいているところもございますが、実現にタイムラグがあるということもございます。

数量要因については、ここに記載のとおり、大きいところは工業用フィルム、PCR検査関連、それから、ここには記載しておりませんが、自動車関連で、エンジニアリングプラスチックなどもこの増益に寄与しております。

その他の項目では、設備投資が増えているということで、償却増、それから5月の決算説明会でも申し上げましたが、安全防災に対する投資は惜しまない、費用を惜しまないということで、その部分が数億円かかっています。

その結果、営業利益は前年の104億円から、171億円になりました。

## 決算サマリー | BS



	(B)		(A)	(億円)
	20/3末	21/3末	21/9末	増減(A)-(B)
総資産	4,889	4,912	<b>5,037</b>	+125
現預金	252	347	<b>263</b>	▲ 84
棚卸資産	806	763	<b>868</b>	+105
有形固定資産	2,315	2,246	<b>2,282</b>	+36
純資産	1,826	1,886	<b>1,986</b>	+100
自己資本	1,779	1,857	<b>1,958</b>	+101
うち利益剰余金	619	644	<b>704</b>	+61
非支配株主持分	47	29	<b>28</b>	▲ 1
有利子負債	1,751	1,870	<b>1,855</b>	▲ 15
D/E レシオ	0.98	1.01	<b>0.95</b>	-
Net Debt / EBITDA倍率*	3.8	3.3	<b>2.9</b>	-

\* (有利子負債 - 現預金) <期末> / EBITDA <年換算>

5

バランスシートです。

こちらは先ほど申しましたが、運転資金増ということで、棚卸資産が増えております。これは売上の拡大に伴うものです。現預金については、ほぼ平時に戻ってきたということで、厚めに持っていた手元の資金を平時に戻したため減っております。

## 決算サマリー | セグメント別



(億円)

	売上高		営業利益		
	20年度 上期	21年度 上期	20年度 上期	21年度 上期	増減
フィルム・機能マテリアル	738	<b>859</b>	87	<b>122</b>	+35
モビリティ	150	<b>216</b>	▲ 13	<b>▲ 9</b>	+4
生活・環境	502	<b>547</b>	18	<b>19</b>	+1
ライフサイエンス	124	<b>163</b>	16	<b>46</b>	+30
不動産・その他	62	<b>53</b>	10	<b>11</b>	+0
消去・全社	-	-	▲ 14	<b>▲ 18</b>	▲ 4
合計	1,575	<b>1,839</b>	104	<b>171</b>	+67

6

セグメント別に移らせていただきます。6ページをご覧ください。

セグメントの中身ですが、売上項目については、不動産セグメントを除き、全てが回復を示したということでございます。

営業利益についても、全セグメント増益であります。その中でもフィルム・機能マテリアル、それからライフサイエンスが、その増益を牽引しました。一方、モビリティについては、エアバッグの苦戦が続き、引き続き赤字となっております。

## フィルム・機能マテリアル



(億円)

	20年度			21年度			上期増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	363	375	738	457	402	859	+121	+16.5%
営業利益	39	48	87	68	54	122	+35	+40.4%
(率)	10.8%	12.8%	11.8%	14.9%	13.5%	14.2%	-	-

### 包装用フィルム

- 環境配慮製品の需要堅調も、原料価格高騰の影響を受ける

### 工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルムは、新ライン（3号機）の稼働により増収
- セラコン用離型フィルムは、新ライン（加工設備）の稼働により増収

### 機能マテリアル

- 工業用接着剤“バイロン”は、エレクトロニクス用途の販売が堅調に推移

7

セグメント別にもう少し詳しく見てまいりたいと思います。まず、フィルム・機能マテリアルのセグメントでございます。

全体としては、大幅増収増益となっております。ただし、この中で包装用フィルムについては、需要は非常に堅調であったのですが、原燃料価格の影響を大きく受けております。とりわけオレフィンについては、原燃料価格の影響に加え、昨年9月の火災によって量が減っているという影響もございます。

価格転嫁については、お客さまには1月以降の原料の高騰分のうち、約半分はお願いしているのですが、それが実現するのに時間がかかっているといえますか、実際の仕切り値までにタイムラグがあるということでございます。今後、下期に向けて、その部分が効いてくるということをご期待しております。

工業用フィルムについては、液晶偏光子保護フィルム、SRF、セラコン用離型フィルムともに増設効果があったということでございます。SRFは25%増収、セラコンについては30%増収でございます。

機能マテリアルについては、エレクトロニクス関係の樹脂が好調でございました。

## セラコン用離型フィルム

- ・年率7%以上の成長市場
- ・強み：原反から加工までハイエンド品を一貫して製造できる世界唯一のメーカー
- ・2020年度シェア25%、2025年までにシェア35%をめざす

### ▶ 加工設備の増設

- ・設備投資額 60億円
- ・2020年6月 1号機本格稼働
- ・2022年度1Q 2号機稼働

### ▶ 製造設備の新設

- ・設備投資額 200億円
- ・2022年夏 着工
- ・2024年秋 稼働開始
- ・生産能力 2万ト/年
- ・旧TFFSのインラインコート技術 × 東洋紡の製膜技術

## 二軸延伸ポリプロピレンフィルム

- ・環境に配慮した、食品包装用フィルム
- ・防曇、高剛性など、高性能フィルム

### ▶ 生産設備の刷新

- ・設備投資額 約70億円
- ・2022年度1Q 稼働開始
- ・生産能力 2万ト/年

8

工業フィルムでの増設について、もう少し詳しくお話しします。

これは先にプレスリリースしたものでございますが、セラコン用離型フィルムは非常に市場が伸びており、足元でも足りないという状況で、お客さまからも強い要望がある製品でございます。

当社の強みは、ポリエステル原反から、それに後加工するところまでを一貫でできることです。当社はハイエンドで、今回私たちと同じ仲間になった旧帝人のフィルム部隊はミドルゾーンで強みを持っているということで、その両社の強みを組み合わせて、世界一のメーカーを目指していきたいと思っております。

設備投資額は、記載のとおり200億円でございます。両社のポテンシャルを合わせて生産能力2万トンの設備を、2024年秋稼働を目指して着工に入っております。

それから、下の欄、二軸延伸ポリプロピレンフィルムは、食品包装用がメインでございます。昨年、火災で1万トンを失ったのですが、そのラインの横の敷地につくっているものでございます。これが来年稼働すれば、量的にも、また機能的にも、今までの従来の汎用フィルムではないものをここで提供できるということで、われわれの競争力向上につながるものと思っております。

# モビリティ



(億円)

	20年度			21年度			上期増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	68	82	150	111	105	216	+65	+43.5%
営業利益	▲7	▲6	▲13	▲5	▲4	▲9	+4	-
(率)	-	-	-	-	-	-	-	-

セグメント全体：国内外の自動車生産の回復に伴い、販売は堅調

## エンジニアリングプラスチック

- 国内・海外ともに販売が堅調

## エアバッグ用基布

- 販売は回復するも、原料価格の急騰により、改善遅れる

9

次にモビリティのセグメントに移ります。

モビリティでございますが、国内外の自動車生産の回復に伴って売上は回復しております。

エンジニアリングプラスチックにおいては、国内外とも販売が堅調、値上げも比較的、受け入れていただいているということで、利益も堅調でございます。

一方、エアバッグについては、売上は回復しているのですが、原料のナイロン66ほか、シリコーンコーティング剤も含めて原材料が非常に上がっていて、価格転嫁が追いついておりません。業界の慣行で、上がったものを、随時上げるのではなくて、半年の期ずれで上げていくという構造が一つございます。加えて、私どもはエアバッグの原糸工場が火災した際に、供給責任を果たすために割高の原糸供給の契約を取っており、その分のいびつなコスト構造もございまして、エアバッグについては赤字が続いております。これまでエアバッグについては、シェアを確保ということで売り先行の販売戦略をしていたのですが、今後はスプレッド重視で、お客さまにも値上げをお願いして、適正な利潤を確保できるようにしていきたいと思っています。全社的にも、ここの赤字は大きな課題と認識しております。

## 生活・環境



(億円)

	20年度			21年度			上期増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	229	273	502	277	270	547	+45	+9.0%
営業利益	3	14	18	15	4	19	+1	+5.7%
(率)	1.5%	5.2%	3.5%	5.4%	1.4%	3.4%	-	-

### 環境ソリューション

- VOC処理装置は、新型コロナウイルス禍で、一時的に受注減少

### 不織布

- 長繊維不織布スパンボンドは、建材・自動車用途が堅調も、原料高の影響あり

### 繊維機能材

- ポリエステル短繊維は、原料高の影響あり
- スーパー繊維は、“イザナス”は釣糸・ロープ用途、“ツヌーガ”は耐切創手袋の販売堅調

### 衣料繊維

- 中東向け特化生地は回復も、スポーツ用途、ユニフォーム用途は停滞

10

生活・環境でございます。

こちらについては、多様な事業を抱えております。その中で、この上期全体としては売上が回復しておりますが、一部事業においては、原燃料価格の高騰の影響を受けて、それが価格転嫁できてないというものでございます。

この中で好調だったのは、スーパー繊維でございます。ここは耐切創手袋が回復してきているということ。それから、もう一つは不織布。不織布の中でもフィルター関係は堅調でありました。しかしながら、原料の高騰を直接受けて、なかなか価格転嫁ができていないスパンボンド、それから衛生材料については、減益という形になりました。

昨年非常に好調であった環境ソリューション、VOC処理装置、これは主にリチウムイオンバッテリーのセパレーターのプロセスで使われる装置ですが、昨年非常に出荷が好調で、利益の拡大に貢献しました。しかしながら、海外が主力で、今期は現地のフォローができておらず、受注が一時的に減少しております。ただ、足元においては、EV化の波の中でお客さまへの積極的な拡大投資が打ち出されており、今年の後半、あるいは、もう少し時間かかるかも分かりませんが、来年度には必ずこの売上は回復するめどがついてきております。

衣料繊維については、中東向けの特化生地は回復しておりますが、従来のスポー

ツ、ユニフォームについては停滞しております。これを受けて、先般、富山の事業所、紡織加工の工場でございますが、ここは3工場ありますが、2年をかけて1工場に集約するというのを今、組合に提案しているところでございます。加えて、昨日発表しましたが、繊維関係の販売機能、販売会社についても統合をして、機能を強化、それからコスト競争力を高めるということで、衣料繊維については早期に収益の改善を目指してまいりたいと思っております。

# ライフサイエンス



(億円)

	20年度			21年度			上期増減	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	率
売上高	63	60	124	75	89	163	+40	+32.3%
営業利益	10	6	16	19	28	46	+30	+188.8%
(率)	15.7%	10.0%	12.9%	24.9%	31.1%	28.2%	-	-

## バイオ

- PCR検査用原料・試薬、遺伝子検査装置などの販売が拡大

## メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜の出荷堅調

## 医薬

- 医薬品製剤製造受託事業は、FDA対応のため、操業度低下



11

ライフサイエンスセグメントでございます。

こちらは、フィルム・機能材料と並んで、今回の増益を牽引したセグメントでございますが、中でもここに記載のとおり、PCR検査用の原料・試薬、遺伝子検査装置、この辺りが販売を伸ばしました。私どもは2021年2月から検査試薬の生産能力を倍増しまして、この上期はそれがフルに寄与しました。とりわけ2Qにおいては、オリンピック開催で需要が急増し、大きく売上、利益とも伸ばしております。ただし、足元については、コロナ感染拡大がようやく終息に向かいつつあり、われわれの出荷も減速しておるということでございます。そのため、下期、このPCRについては、第6波が起こらないという前提で見通しを組んでおります。今後はPCRに加えて、イムノクロマトという、精度の高い抗原検査を投入していくということで、平時の対応を強めてまいります。

メディカルについては、人工透析用の中空糸膜の出荷が堅調でございます。私どものお客さまのニプロさまからは、もっと量の要求があるのですが、現状の生産能力がいっぱいということで、フル稼働でございます。そういうことを受けまして、海外の展開もにらみまして、トピックスであるとで触れますが、先週発表しましたニプロさんと一貫工場を建設する予定でございます。

医薬については、FDAからワーニングレターが出たということで、品質の事案への対応と、品質保証体制に対する警告ということで、その対応をしております。

その関係で操業度は今、落ちております。ただし、このワーニングレターが出たから、生産あるいは出荷ができないということではございませんので、私どものお客さま、委託先からは早期の操業開始を要望されており、遅くとも来年初めには停止しているラインの再開を予定しております。医薬についても、現時点では苦戦しておりますが、品質保証体制を強化することと併せて、設備の老朽化更新投資を行う、新鋭化するということで、中長期にわたって医薬の供給責任を果たしていきたいと考えております。

### 人工腎臓用中空糸膜

・世界の人工透析患者は、年率7%増加

#### ➤ 一貫生産工場の新設

- ・中空糸製造から、ダイアライザへの加工・製品化まで一貫生産体制
- ・ニプロ工場内（秋田県大館市）
- ・設備投資額 約50億円（中空糸の生産設備）
- ・2024年7月 稼働開始



### ウイルス除去フィルター

- ・抗体医薬品製造工程での、抗体とウイルスを分離する膜
- ・抗体医薬品の製造向けで、需要増加
- ・23年～25年に能力増強予定

12

メディカルのトピックスでございます。

今申し上げました一貫工場建設の件でございます。先週金曜日にプレスリリースしたものでございます。ニプロの大館工場に新しい建屋をつくって、その1階部分に私どもが入るということで、同じ建屋で二つの会社が存在するというのですが、両社の信頼関係のもとで一貫生産に移りたいと。将来的には、ここで一貫生産したことで、国内だけではなくて、海外においても一貫生産をにらんだ、ある意味モデル工場という位置づけでございます。今から作りまして、バリデーションが必要でございますので、2024年7月に稼働予定でございます。

それから、下に書いているウイルス除去フィルターでございます。ここに記載のとおり、抗体医薬の製造プロセスで使われるフィルターでございます。われわれは後発でございますが、現在ワクチンほか、医薬業界でウイルス除去フィルターの需要が急増しております。その中でBCP対応ということで、われわれのフィルター用の原糸に対する要望が非常に高まっており、今後、力を入れていきたいと考えております。

以上、セグメントごとの動きでございます。

## 2021年度業績見通し



工業用フィルムは堅調に推移するも、原燃料価格高騰、自動車減産の影響が懸念されることから、営業利益 290 億円、当期利益 130 億円の予想を据え置く

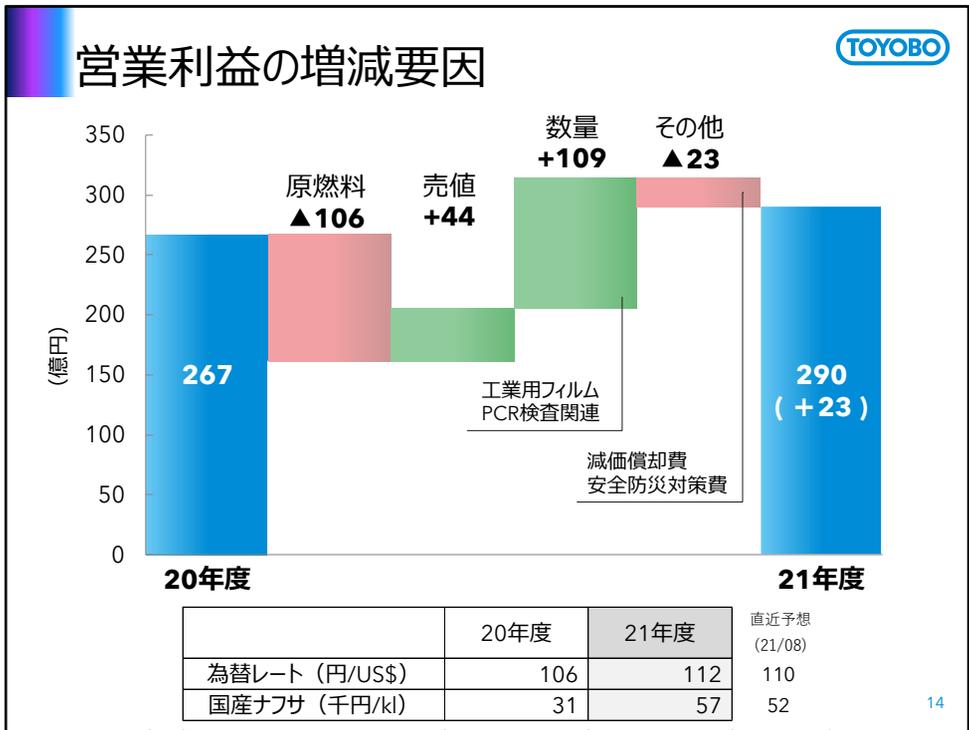
(億円)

	20年度	21年度			増減	
	実績	上期	下期	見通し	金額	率
売上高	3,374	1,839	1,811	<b>3,650</b>	+276	+8.2%
営業利益	267	171	119	<b>290</b>	+23	+8.8%
(率)	7.9%	9.3%	6.6%	<b>7.9%</b>	-	-
経常利益	207	133	107	<b>240</b>	+33	+15.9%
特別損益	▲ 151	▲ 18	▲ 52	<b>▲ 70</b>	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	42	97	33	<b>130</b>	+88	+208.5%
EBITDA	458	271	222	<b>493</b>	+35	+7.8%
EPS (円)	47.3	109.2	37.1	<b>146.3</b>	-	-
減価償却費	191	100	103	<b>203</b>	+12	+6.3%
設備投資	233	138	172	<b>310</b>	+77	+33.3%
配当 (円)	40.0			<b>40.0</b>	-	-

13

それを踏まえて、21年度の業績見通しでございます。

冒頭触れましたように、工業用フィルムは堅調に推移するものの、原燃料価格、自動車減産、それからPCRのスローダウン、加えて、足元では一部調達品の調達困難ということもございますので、そういうことを踏まえたと、営業利益は290億円で据え置きたいと考えております。



営業利益の増減要因分析でございます。

特にナフサがさらに上昇して、足元6万2,000円でございます。昨年の下期が3万5,000円でございますので、その分、約3万円弱、ナフサが上がるということで、それ相応の原燃料価格の上昇を見込んでおります。

数量増については、昨年下期から立ち上がっている分もございまして、上期とあまり変わらないという形になっております。

## セグメント別見通し



(億円)

	売上高		営業利益			直近予想 (21/8)
	20年度 実績	21年度 見通し	20年度 実績	21年度 見通し	増減	
フィルム・機能マテリアル	1,528	<b>1,700</b>	200	<b>210</b>	+10	203
モビリティ	366	<b>400</b>	▲ 16	<b>▲ 14</b>	+2	▲ 10
生活・環境	1,091	<b>1,110</b>	44	<b>37</b>	▲ 7	52
ライフサイエンス	271	<b>330</b>	45	<b>71</b>	+26	60
不動産・その他	118	<b>110</b>	23	<b>22</b>	▲ 1	23
消去・全社	-	-	▲ 30	<b>▲ 36</b>	▲ 6	▲ 38
合計	3,374	<b>3,650</b>	267	<b>290</b>	+23	290

15

セグメント別の見通しでございます。

こちらにおいては、8月の見通しから若干変更しております。営業利益部分では、フィルム・機能マテリアル、それからライフサイエンスについては、上期の実績を踏まえて強めにしております。一方で、今後、減速が懸念されるモビリティ、それから原燃料影響が大きく出る生活・環境については、下方修正ということでございます。

以上が決算でございます。

## 経営課題



### (1) 信頼の回復（最優先課題）

- ① 安全・防災・品質保証の徹底
- ② リスクマネジメント強化

### (2) 事業ポートフォリオの組み換え

- ① 拡大事業への重点投資（フィルム、ライフサイエンス、環境）
- ② 安定事業の成長余地見極め
- ③ 改善事業は、改革マスタープラン実行

### (3) 未来への仕込み

- ① 有力テーマの事業化加速とみらいテーマ設定
- ② DX戦略策定と先行事例づくり
- ③ カーボンニュートラルの工程明確化

### (4) 土台の再構築

- ① 人材
- ② 風土改革・組織開発
- ③ 事業インフラ

16

私は4月に社長に就任して、5月に皆さま方に、経営方針、それから経営課題を述べさせていただきました。

経営方針としては、持続的な成長に向けて経営基盤を作り直すということでございます。統合報告書にも書かせていただきましたが、一言で言えば、構造改革期のサバイバル志向からサステナブル志向へ転換するというのを今、進めております。

その施策がこの4つでございます。信頼の回復、事業ポートフォリオの組み換え、未来への仕込み、土台の再構築。これは、企業がサステナブル、持続可能なために必要な全ての要素かと思っております。その中の一丁目一番地、信頼の回復でございます。私どもは、昨年、火災事故に続いて、品質の不適切事案が判明したということで、製造業としての信頼が揺らいでいるということでございます。ここ1年、強い危機感を持って、この信頼の回復に取り組んでまいりました。その中で、本日は、品質の不適切事案についての現時点の動き、それから対応についてご説明申し上げたいと思っております。

品質不正防止・撲滅に向けた具体的な取組みということで、ここに記載させていただいています。まず、あらためて、この品質の不適切事案を起こしたということで、お客さまにお詫びを申し上げるとともに、投資家の皆さまにもご心配をおかけしたということを深くお詫び申し上げます。現在、お客さまへの対応という

ことで、ここ1年、真摯に取り組んでまいりまして、着実にお客さまとの問題は解消に向かっております。一方、今回の事案以外に、こういう不適切事案がないのかということで、第三者も入った調査、それからアンケートも実施しております。このアンケート結果を21年5月に発表すると申し上げたのですが、現時点でまだ続けております。理由は、強制的に回答を募ると、潜る場合があるという、外部のコンサルタントのアドバイスを受けまして、督促はしておりますが、まだ全員から集まっていないためです。国内についてはほぼ集まっているのですが、海外については慎重な方がいらっしゃるということで、引き続き説得をして回答いただくということです。

ただ、現時点では、リコール等、重大な事案になるような問題は見つかっておりません。万が一、見つかった場合は皆さま方にお知らせいたしますが、現時点では今起こっている問題について真摯に取り組んでいく次第でございます。アンケートについては、少し時間がかかるのですが、来年3月には完了して、報告をする予定でございます。

## 品質不正防止・撲滅に向けた具体的な取組み



めざす姿：お客さま視点でお客さまに安全・安心を約束するモノづくり

不正のトライアングル：【機会】×【動機】×【正当化】 + 【無知】 ⇒ 4要素への対応

【機会】⇒ 仕組みを変える

- ◆QA体系遵守(ゲートチェック強化)
- ◇PL/QAアセスメント見直し
  - ・抜き取り・抜き打ち検査を追加
- ◆品質データ取り扱いシステム化
- ◇品質関連組織体制強化
  - ・スリーラインディフェンス
- ◇リスクが見える仕組みの構築

【動機】⇒ 風土を変える

- ◆企業理念：「順理則裕」の原点に立ち返る
- ◆トップ方針：「安全最優先」の浸透・徹底
  - ※【安全】=【労働】【環境】【製品】【設備】
- ◇人材ローテーション・業績評価

- ◇コンプライアンス教育見直し
  - ・対話・相談できる環境づくり
- ◆品質保証マニュアル事例レポート
- ◆PL事故対応訓練・PL/QAセミナー

- ◇QA教育プログラムの強化
  - ・新入社員研修
  - ・現場リーダー層教育
  - ・マネジメント層、経営層教育 など
- ◆ルール・専門知識・法律

【正当化】⇒ 意識を変える

【無知】⇒ 知識を増やす

(◆：現在進行中、◇：今後の重点取組み)

17

品質不正防止について、私どもの取組みでございます。

考え方としては、お客さま視点でお客さまに安全・安心を約束するモノづくりだということで、不正のトライアングル、この三つです。機会、こういう改ざんができないように、こういう機会を取り除く。それから、そういう不正行為を正当化させない。それから、そういうことを起こさせるような組織にしないということで、仕組みを変える、意識を変える、風土を変えるということで進めております。細かにいろいろな施策があるのですが、この中で、仕組みを変える中ではスリーラインディフェンスということで、現場で、まずここはチェック、第1ラインですが、ここでチェックする。それから、事業部とは独立した品質保証部門が定期チェックをする。それから、第3ラインとしては、内部監査に品質監査機能を設けて、それができているかということで、これをもって仕組みとしては、そういう改ざんができない、万が一、改ざんされても、それを早期に発見する仕組みをつくっていきこうとしております。加えて、ここについては、デジタル化、データベース化が遅れておりますので、ここについてもシステム化を急いでおります。正当化への対応としては、あらためてコンプライアンス教育ということで、われわれの企業理念、順理則裕に立って、われわれがなぜ存在して、どういう仕事の仕方をしないといけないのかということで、私も入って、そういう意識改革を進めております。風土改革については、ローテーションという、人事のよどみがこの背景でございますが、それに加えて職場で話をしやすいと、異常があったら声を出すということをしやすい風土改革、対応しやすい風土改革ということ

で、組織開発の手法を使って見直しをしております。この3点に加えて、今回われわれの不適切事案が起こった背景として、無知、知らなかったということがございます。前任者から引き継いで、これが違法だと知らなかったということがございます。こういうことで、ULあるいはISOの専門家をお呼びして、幹部から現場のメンバーまで、もう一度、勉強し直すということを進めております。

# 品質体制再構築ロードマップ



	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降
<b>重点課題</b>	<b>信頼回復</b> 検査によって品質を保証し プロセスで品質を作り込む			<b>ゆるぎない信頼</b> 商品ライフサイクルを意識 した品質保証の考え方定着
<b>緊急対応</b>	外部認証対応 アセスメント見直し お客さま対応			
<b>是正対応</b>	品質DXガイドライン	関係会社・海外事業所への水平展開 品質DX事例の水平展開 ⇒ スマート工場化加速		
<b>標準化</b>	マネジメント体制（有効性検証）：スリーラインディフェンス体制・リスクマネジメント委員会活動	着実な品質保証マネジメント運用（ISOをツールとして実ビジネスに積極活用） 品質人材マップ運用、専門職制度等での専門家育成と積極活用		
<b>意識改革</b>	企業理念：「順理則裕」の原点に立ち返る／「安全最優先」の浸透・徹底 組織風土・意識改革	品質保証は全員活動！の浸透 品質保証人材の育成・品質意識の醸成		

品質体制再構築ロードマップでございます。

この1年で、信頼回復元年ということで取り組んでおるのですが、体質改善もございまして、2024年、3年ほどかかるのですが、ここに挙げてあるアクションを取っていきたくております。

# 経営課題



## (1) 信頼の回復（最優先課題）

- ① 安全・防災・品質保証の徹底
- ② リスクマネジメント強化

## (2) 事業ポートフォリオの組み換え

- ① 拡大事業への重点投資（フィルム、ライフサイエンス、環境）
- ② 安定事業の成長余地見極め
- ③ 改善事業は、改革マスタープラン実行

## (3) 未来への仕込み

- ① 有力テーマの事業化加速とみらいテーマ設定
- ② DX戦略策定と先行事例づくり
- ③ カーボンニュートラルの工程明確化

## (4) 土台の再構築

- ① 人材
- ② 風土改革・組織開発
- ③ 事業インフラ

19

経営課題として信頼の回復の中の品質について、本日はご説明しました。

2点目の事業ポートフォリオについては、強い部分に資源を投下して、改善が必要なところには構造改革の施策を打っております。未来の仕込みについては、今度発表しますビジョンの中でも織り込んでいきたいと思いますが、2030年以降、事業化するテーマについても着手していく。カーボンニュートラルについても、工程を明確化していきたいと思っています。

こういう1、2、3を支えるのが土台でございます。その中でも人材、それから人材をつなぐ組織についても、人事制度改革も含めて大きな改革を今進めております。

今後は、経営課題、まだ半年経過したところではありますが、1年後の決算説明会においては、皆さまにもう少し詳しい形で進捗をご報告したいと思っています。

最後になりますが、次のビジョン2030年のサステナビリティビジョン、それから2025中期計画でございます。前回5月の説明のときは、12月に発表ということで申し上げましたが、サステナビリティの観点でもう一度内容を見直しているということ、それから、もう一つは、21年度の足元の数字を確定してから発表したいほうがいいのではないかということで、5月の決算月をめどに皆さんにご報告、ご説明したいと思っています。この点、変更になりますが、ご了承いただきました。

く、お願い申し上げます。

説明は以上でございます。ご清聴ありがとうございました。

## ご注意



本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

All Rights Reserved



All Rights Reserved



## セグメント別情報



(億円)

売上高	20年度					21年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q
フィルム・機能マテリアル	363	375	392	398	1,528	457	402
モビリティ	68	82	105	111	366	111	105
生活・環境	229	273	271	319	1,091	277	270
ライフサイエンス	63	60	69	79	271	75	89
不動産・その他	31	31	27	29	118	26	27
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-
合計	755	821	864	935	3,374	946	892

営業利益	20年度					21年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q
フィルム・機能マテリアル	39	48	56	57	200	68	54
モビリティ	▲7	▲6	▲4	1	▲16	▲5	▲4
生活・環境	3	14	12	14	44	15	4
ライフサイエンス	10	6	16	14	45	19	28
不動産・その他	5	6	6	7	23	4	7
消去・全社	▲7	▲7	▲8	▲8	▲30	▲8	▲10
合計	44	61	79	84	267	92	79

23

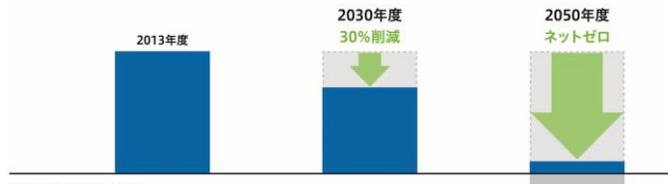
# カーボンニュートラル | 目標と施策



2030年目標 Scope1,2 : GHG排出量30%以上削減 (2013年度比)

2050年目標 Scope1,2 : GHG排出量ネットゼロをめざす  
GHG削減貢献量 > 当社バリューチェーンのGHG排出量

事業活動からの排出の削減 (燃料転換の推進 / 生産効率の向上 / 再生可能エネルギーの導入など)



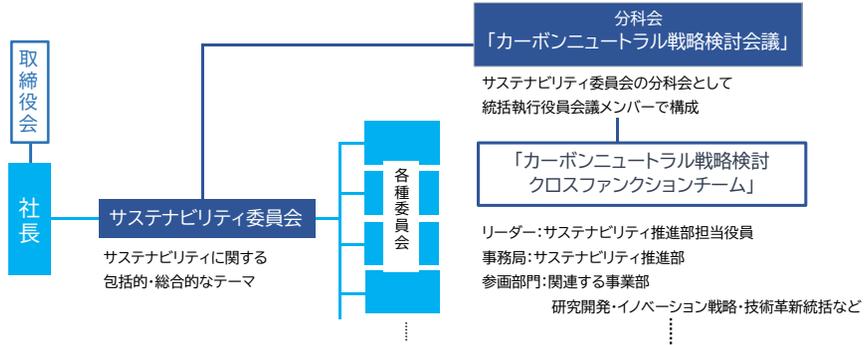
※ Scope 1 : 事業者自らによる直接排出  
Scope 2 : 他社から供給された電気・熱・蒸気の使用に伴う間接排出

## 【施策】

- 燃料転換 (低炭素、さらに脱炭素へ)
- バリューチェーン全体のGHG排出量削減
  - ・製品の軽量化、原材料の見直し、グリーン物流の推進
- GHG削減貢献量の拡大
  - ・海水淡水化膜、浸透圧発電用FO膜、バイオプラスチック、CO<sub>2</sub>分離膜
  - ・風力発電向けフィルム、有機薄膜太陽電池用発電材料 など

2013年度比2020年度  
**GHG排出量削減実績26%**  
Scope1 : 718千t-CO<sub>2</sub>  
Scope2 : 184千t-CO<sub>2</sub>

# カーボンニュートラル | 取組み状況



## カーボンニュートラル戦略策定の三つの視点

- ① 生産活動に伴う、GHG排出量の最小化
- ② 提供ソリューションによる、GHG排出量削減・貢献
- ③ GHGの分離・回収などの技術開発

## TCFDシナリオ分析開始



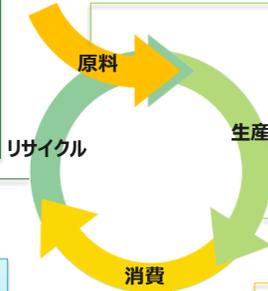
# 廃棄物ゼロへの実現へ | サーキュラーエコノミー



- **マテリアルリサイクル**
  - ・リサイクル性に優れたポリエステル重合触媒  
"TOYOBO GS Catalyst"
- **ケミカルリサイクル**
  - ・廃プラを粗原料に熱分解する開発技術を支援  
(株) アールプラスジャパン

Recycle

(株)アールプラスジャパン  
業界を超えた共同出資会社  
包装容器製造、商社、飲料メーカーなど業界を超えた連携  
2027年の実用化を目指す



- **バイオマス**
  - ・100%バイオマスの樹脂  
PEF
  - ・植物由来の原料を約20%使用  
"バイオブローナ"
- **リサイクル樹脂**
  - ・PETボトルリサイクル樹脂を80%以上使用したフィルム  
"サイクルクリーン"
- **モノマテリアル化**



"バイオブローナ"使用

- **減容化・薄肉化**
  - ・厚みを1/2以下に薄くしたフィルム  
"スペースクリーン" (20μm←40μm)  
"サイクルクリーン" (12μm←30μm)



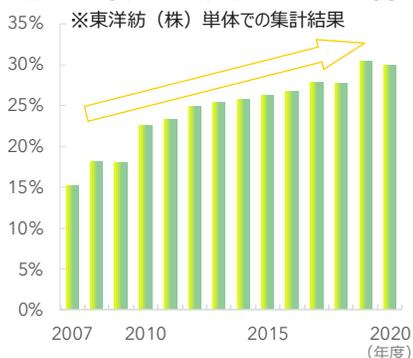
Reduce

## 環境に配慮した製品 | “エコパートナーシステム”

TOYOBO

- ・当社独自に環境影響を評価・認定（1998年から実施）
- ・製品のライフサイクル（原材料～廃棄まで）を6つのステージに分け、各ステージの環境影響を評価  
観点：廃棄物削減／温暖化防止／省資源／化学物質削減／その他の環境貢献

### “エコパートナーシステム”製品の売上高比率 2020年度30%（590億円）



【目標】 2030年度 40%  
2050年度 60%

#### “エリトロン”

静電気で大気中の粉塵を捕集するフィルター

#### VOC処理装置

リチウムイオン電池製造過程に  
用いられる塩化メチレンを回収する  
装置・エレメント など



### ●PENフィルム“テオネックス”

燃料電池セルの封止に用いるシール材。  
トヨタの新型燃料電池自動車“MIRAI”に採用



27